

No.	この研修を体験したことによって学校や地域、教師や子どもなど、自身の教育観(価値観・認識)が変化したこととはどのようなことですか？
1	へき地、小規模校ということに対する偏見やマイナスなイメージがまったくなくなったこと。
2	子どもたちとの距離感。
3	今は先生が子供をさん付けで呼んだり色々厳しい時代だけど、私の見た学級は本当に先生と児童仲が良く驚いた。
4	子どもに対して叱る大切さ。
5	聞いて欲しくても人数が多くて聞いてあげられない事が授業中も普段の生活の中でも多いと思ったので小規模校でなくても、話を聞いてあげられるようになりたいと考えようになりました。
6	へき地校で先生として働くことを少し拒んでいたが、へき地校で子供たちと過ごしてみたいと思うようになりました。
7	環境だけを言い訳にせずどんなに人数が少なかったりしたとしても工夫すればしっかりできること。
8	教師と子供の距離感の近さに驚いたこと。
9	少人数であるために学校全体で何かに取り組む姿勢が強いこと。
10	子供たちは他者を受け入れる姿勢があるということ。
11	複式授業は大変だという認識があったが、複式授業にもメリットがあるということに変化した。
12	私はフィールドで小学校の教員には向いていないと感じたが、へき地の学校に出向いたことで自分が通っていた小学校と似た印象を感じ、やはり小学校教員になりたいと感じた。
13	人間関係の構築の仕方。
14	環境が違えど、子供に対する愛は変わらないのだと実感できた。変化というよりは再認識出来た。
15	へき地校へのイメージ。
16	子供たちの関係の伸びしろが自身が思っていたよりあるのだと感じた。
17	小規模校は寂しくてこじまらしているイメージがあったが、教室を掲示物で沢山にしたり、広く使って最大限に活用していて素晴らしいと感じた。
18	迅速かつ柔軟な判断と対応。
19	避難訓練は学校内で行うものだと思っていました。ですが、地域の避難訓練に参加して、警察官や行政センターの人、話はずなくても中学生や地域の方と顔を合わせる機会があり、学校と地域の関係を深めるきっかけになると感じました。このように私の中で避難訓練の形態の認識が変化しました。
20	子どもたちだけで進行する時間が難しいのではないかとというのが、むしろコミュニケーション能力の向上の根幹であることが再認識された。
21	複式学級の授業展開についてです。時間や空間の使い方、役割分担を工夫するだけでより自然な授業形態になっていたことに驚きました。
22	小規模校の先生や子どもたちは人数が少ないながらも活気に溢れている。
23	先生になったときに子供とかかわる時間が長くて良いなと思った。
24	少人数学校に対する考え。
25	先生が一方向的に教えるのではなく、児童自身で考えさせることが大事だと思った。
26	どの授業でも復習・学習・ふりかえりのサイクルを定着させることで知識が増えていくのではないかと考えたこと。
27	悪条件であっても、それを克服し不可能を可能にすること。
28	教師に求められる姿勢。
29	その土地ならではの産業を生かした学習の大切さのこと。
30	子供たちを信頼する。
31	人数が少ないことのデメリットをメリットもあるとわかったこと。
32	小規模校の子はあまり話し慣れていないと思っていたが逆だったということ。
33	ICT機器を活用した授業展開が想像以上に円滑な授業展開につながっていたので、自分が教員になった時にも取り入れていきたいと思った。
34	今の学校は幼い頃から議論の形を学ばせていると知ったこと。
35	様々な環境の中で育つ子がいるということ。
36	教卓の位置で、前にあるのが普通だと考えていたが、教卓は前になくてもいいという先生の言葉を聞いて、確かに固定概念に囚われすぎていたのかなとハッとさせられたこと。
37	小規模校は人数が少ないため授業をすることも行事を展開することも人数の多い学校に比べて難しいことだと考えていたが、少人数だからこそ体験活動を多くやったり全校児童でひとつの作品を作り上げたりすることで学年関係なく様々な力を児童一人一人が身に付けることができるという考えに変化した。
38	訪問前から小規模校の良さというのはわかってはいたつもりではいたが、実際に訪れてみて小規模校のいい所が本当に多くみんなが楽しそうに授業や休み時間を過ごしておりとてもよりの印象が強くなった。
39	へき地校のプラスの部分がたくさん見えて、もし自分がへき地校に行っても、楽しく過ごすことができそうに感じた。
40	小規模校にあまりいいイメージがなかったが、実際に訪問してみて、その考えが180度変わった。
41	地域の方々たちとの関わり。
42	へき地校は不便なことが多いと感じていたが、子供たちはそうは思っておらず、弱みを強みとして変えていこうとする強さがあった。
43	私が小学・中学生の頃は授業中は生徒同士の交流禁止だったが、今は逆にそれが主体的な学習とされ推奨されていて、ギャップを感じた。
44	マイナス面を補うための創意工夫はいくらでもできること。
45	生徒と教師との信頼関係がとても大事であること。
46	子どもの自ら学ぼうとする力は、自分の想像よりもはるかにあること。
47	へき地校教育のプラス面を実感することができた。むしろ実習ではへき地校教育のデメリットの方が実感しにくいように感じた。
48	効率よく教員が授業を展開するよりも教員の関与を少なくした生徒が主体の授業が今後の学びとして求められているということ。
49	複式学級に対しての疑念が払拭されたこと。
50	人数が少なくても異学年同士の交流が盛んで、児童のコミュニケーション能力の高さや積極性に良い影響を与えていると実感したこと。
51	人が少ないからこそその利点も沢山あること。
52	生徒との距離の近さが良い点であると考えますが、その中でもどれくらいその生徒と関わるのか、その配分の仕方など認識が少し変わりました。
53	グループ学習の大切さをあまり理解出来ておらず、授業の中で最低限でいだろうと思っていたが協調性を育てる大切さを学び、協調性との関連性が深いグループ学習の大切さを学ぶことが出来た。
54	人数が少ないとできないことが多くあるという印象がありましたが、少ないからこそ深い交流ができていたり、授業中の教え合いが活発であったり、いいところがたくさんあるということを発見しました。
55	教師という職業が意外とブラックではないこと、子供たちとの関わり方と距離感を掴めた。
56	教員の努力が子どもたちに大きな影響を及ぼすこと。
57	小規模校の認識。男女関係なく一緒に楽しんでいるところ。
58	教師に対するマイナスイメージについて、背景には学校や地域の協力によって様々な工夫がされていると分かり、マイナスイメージを減らすための取り組みも多くあると知ることができた。
59	いい意味で、へき地・小規模校の学校と中規模校、大規模校に通う児童は、変わらないということ。変に〇〇だからと捉えることはあまり好ましいことではないということを知りました。
60	今までとあまり変化していません。ICTが使われるようになったことぐらいが主な変化かと思います。
61	色々な角度からの視点が大切であることを再確認できた。
62	コロナ禍の中でもさまざまな感染対策、予防をすることで地域と連携しながら児童を成長させていくことや、少ない人数での関わりあいのなかでも学年問わずに交流を深めていたこと。

No.	この研修を体験したことによって学校や地域、教師や子どもなど、自身の教育観(価値観・認識)が変化したことはどのようなことですか？
63	子供に対して「上手」や「面白い」と言う言葉で褒めるのではなく、「〇〇のどんな所が良い、好きだな」と言った、個性的良さを認識させ、認めてあげる事で子供の成長や「好き」という気持ちに繋がるということ。
64	フィールド校で、見学する教員と児童の様子よりも、一人一人に目を配れる小規模校での教員と児童の距離感や信頼性をみることが出来て、これこそが今の社会に必要な学校現場なんだと思いました。これこそが、自分のなかで大きく変わった認識です。
65	子どもに対し嫌でも点数をつける職業としてマイナスイメージを持つのではなく、いい所を褒めてあげられる所をみつけるきっかけと捉えることです。
66	単に上手だね！出来たね！と褒めるのではなく工夫点や魅力、その過程などを褒めてあげることが子供たちにとって良いということ。
67	人数が多いだとか少ないだとか都合だからとか田舎だからとかという考えにとらわれずに、1人の教師として子供たちに影響力のある教師になりたいと思った。
68	学校は地域との関わりの中で成り立っていること、もっと活発に生徒・先生間の意見交流をした方がいいこと。
69	へき地・小規模校の悪い部分があり目立ってなかったこと。
70	子どもを褒める時は具体的且つ大袈裟に褒めると子どもの主体的な学びを助長することができる場合がある。
71	少人数は出来ないことが多いと思ってしまっていたが、少人数だからこそ出来ることを工夫することで、明るく温かい学校を作ることができると気付けた。
72	「地域」というものは場所や人によって温かくなったり密度の濃いものになること。
73	地域の特性や産業を知ることで、その地域に住む家庭の状況などもおおまかに知ることができ、それが地域の家庭を背景とする児童たちの理解へとつながるので、地域について知ろうとすることは重要だと感じるようになった。
74	今まで私は割と大きな規模の学校に通ってきたので異学年の交流がほとんどなかったが、小規模校では異学年交流が盛んで上下関係の構築の観点でもとても良いと思った。
75	今まで大規模校で勤めるということを中心に考えていたが、今回の研修を通して、小規模校で学ぶ児童の姿を見て、教員の配慮によって、人数が多い少ない関係なく良い学びを展開することが出来るということ。
76	授業は数多く工夫できる。
77	へき地は多くのメリットがありへき地だからこそその教育の仕方があると思った。
78	子どもに全ての答えを最初から教えるのではなく、子どもたち自身で考えるように促すことの大切さをより学びました。
79	わりについて実際に見て、どのようになされているかを理解出来たこと。
80	授業などでの少人数ならではの良さをあらためて認識することができた。
81	まだないです。
82	生徒数が少なすぎるゆえに生徒に構いすぎしてしまうことがあるかもしれないということ。
83	少人数でも大人数学校と変わらないような授業の濃さであること。
84	教師の団結力が強く、児童生徒の仲もよかったのでとてもアットホームかつ親しみやすい環境が整っていたので、規律に縛られすぎていると言うよりは支え合って学習していくということの大切さを改めて認識しました。
85	教科担任制の有用性について考えを深めることが出来た。子供たちに専門的なことを教えるためや、先生個人の負担を減らすために教科担任制は効果的であると考えた。
86	教師が生徒に干渉しすぎるのは、正しい方法であれば問題がないということ。
87	学校林があり、学校林は地域の人の協力のもと学校行事で使うことができると聞いて地域と学校のつながりとはとても強いということを再認識した。
88	人数が少ないからこそできるレベルの合わせた授業をできて行けるのはいいなと考えた。
89	へき地の学校はもっと小さいものだと思っていたが、そんなこともなかった。
90	当たり前のように意見を言い合って、協力し合おうとする姿勢がこれから生きていく上でも重要になると感じた。
91	学校は学校でも様々な形の学校が存在することを知ったこと。
92	学校内の雰囲気は人数で決まるのではなく、子ども自身であり、それを支えるのが教師。
93	地域と学校の連携について。
94	人数が少なくても工夫すれば、いろいろな可能性を見出せること。
95	小規模・へき地校は人数が少なく活発では無いイメージがあったが、全員で一丸となって行事などに取り組んでおり、それぞれ工夫してやっていた事。
96	それぞれの学校や子どもたちに合わせた授業形式や関わり方をする必要があること。
97	改めて先生方の負担というかやらなければならない仕事が多くあることを知り大変だけど、子供たちと近い距離で接することが出来るので楽しそうだと思います。
98	へき地小規模校と言われるような学校でも、ならではの強みをもって、その強みを活かしていること。
99	複式学級なら全ての授業を複式でやると思っていたが、英語は単独に分けていること。
100	新たに変わったことはあまりなかったです。ですが、子どもと教員の距離が近いことはやはり重要なのだと再確認しました。
101	特別支援学級はその地域で求められる種類の学級が開設される。教師の配属次第で対応可能。
102	複式授業の時に他学年の声が気になって集中できないと思っていましたが、みんなやるべきことをやっていて考えが変化しました。
103	へき地や小規模であることに限らず、異なる環境であってもその地域や学校で生活し学ぶ子どもたちに共通して伝えられることを伝えるのも大切であるが、反対に地域や学校の独自性がそこで学んでいくことも子どもたちのアイデンティティの一つになっていたりすることを知ることができた。
104	小規模校だからこそ一人一人の苦手に寄り添ったり、行動に児童一人につき一人の先生が着くなど、生徒に密接に触れ合った教育を行うことが出来るのがとてもいいなと思ったし、へき地小規模校で実際に指導してみたいなと思ったことです。
105	先生は思っていたより、生徒と距離が近いということ。
106	チーム学校としてあらゆることに取り組むこと。
107	小規模校の方が児童と教員の距離が近く親しみやすいこと。
108	自分は小規模教育の教育の方が向いているのではないかと、一人一人に教育したいという思いが出てきました。
109	今はインターネットの普及によりへき地校でも満足のいく教育ができることがわかって良かった。
110	今までは、生徒と教員の関係は授業だけのように感じていたが、休み時間も生徒と教員の仲の良さが伺えてとても暖かい学校だと感じた。
111	地域と学校の近さを再認識できた。
112	主体性がかなり身に付いている。
113	単式授業の数が多いこと。
114	課題を課題のまま終わらせるのではなく克服に向けて対策をしっかりと考えていくことが重要だと改めて感じたこと。
115	個別最適な学びはへき地校や小規模校の方がやりやすい。
116	へき地だからといって特別なことをしているわけではない。基本はどの学校も同じ。
117	大人数だとクラスの中でグループができてしまいあまり関わりが少ない人が出てきますが、少人数だからこそ全員が仲良く、一緒に遊んでいることに驚きました。また、少人数だからこそ個々に対応していたりして学びになりました。
118	子どもたちと教員が休み時間と授業のときの距離感・親密さに違いがあっても良いということ。
119	いい意味でアットホームな感じの授業で、児童の分からない点などをすぐに解決することができるのがいい点であると、実際に感じる事ができました。
120	少ない人数であることによって縦のつながりがより深まっていること。
121	授業は真面目に学ぶだけでなく、楽しんで学ぶこともできると言うこと。
122	へき地小規模校の方が教師と生徒の距離が近い。
123	子供たち一人一人としっかりと向き合う大切さ。

No.	この研修を体験したことによって学校や地域、教師や子どもなど、自身の教育観(価値観・認識)が変化したことほどのようなことですか？
124	カリキュラムマネジメントは大切だが、それは子供たちの活動全てにおいてプランニングすることではなく、子供たちの自由な発見や感動を後押しする教育を実現するためのものであると感じました。
125	小規模校のクラスでは意見交流が難しいのかと思っていたが、先生が問いかけなどを工夫することで児童の考えを深めることができるというように認識が変わった。
126	へき地校に対する認識がマイナスからプラスになった。
127	へき地・小規模校のイメージは正直マイナスなイメージの方が大きかったが、訪問したことによって、異学年同士や教員との信頼関係を感じる事ができた。マイナスなイメージからプラスなイメージの転換が多かった。是非来年の1年生にも行って欲しい。
128	子ども一人一人と関わる良さの大切さをあらためて感じられたこと。
129	子供を理解することが大切であることを思った。